

こおろぎ

未来の種蒔き

今、多くの企業がこの不況を乗り切ろうと、日々、懸命に努力をされています。しかし、そうしたせっかくの努力が「今を回す為の努力」になっていて、抜本的な問題解決（お客様に支持される企業になること）に向かっていない場合が多い気がしてなりません。

確かに、今を乗り切らなくては未来はありませんが、自社がお客様から選ばれる企業にならない限り、どんなに努力をしても本質的な問題解決にはならないと思うのです。

それどころか、一旦「とりあえずの努力」で「今」を回してしまうと、それによって「今」が支えられてしまうため、かえってその努力をやめる訳にならなくなり、付加価値を高める努力が更にしにくくなって行きます。そして、本当に追い詰められた時には、すでに抜本的な対応をするだけの体力がなくなっているのです。

こうしたことは「人生」にも言えることだと思います。「日々、真面目に働いているのになかなか幸せになれない」と感じている人は、「どんな人になろうとしているのか？」を、一度、確認してみたら良いと思います。

私自身、10代の価値観で20代を生き、20代の価値観で30代を生きて来たように、私達は、未来を生きることがないので、どうしても過去のイメージで「今」を生きてしまいがちです。

しかし、こうした生き方は、学生時代にカッコイイと思っていた格好を、社会人になってもしている新入社員のようなもので、本人にすれば格好の良いことかも知れませんが、これからその会社で認められようという目的から考えると、ただ自分の未熟さを示しているだけの生き方だと思うのです。

名人の彫刻家は、彫る前から、すでにその素材の中に仏像の姿を見ていると言いますが、企業経営でも、人生設計でも、青写真もなしに家を建て始めるのは馬鹿げたことだと思います。せっかく努力をするのなら、どんな会社になったら支持され、どんな人になったら、人は幸せになれるのかを考えて、そうなるための「今」を生きていきたいと思うのです。

子供のうちは明日のことなど考えず、いつまでも遊んでいたのですが、それでは明日は作れないのです。私が大学に入学したのも、私の描く50代を実現させるための準備のつもりです。実際に夢が叶うかどうかは分かりませんが、私は可能性の種を蒔いておきたいと思うのです。

夢（目標）のないところに、準備の行動はありません。きっと目標がなければ、自分の人生でさえ、手近なところで間に合わせてしまうと思うのです。

私は、私達が魅力的になった分だけ、未来も変わると思います。

段取り八分

私は世の中は、公平なものだと思っています。もちろん細かく見れば例外もありますが、大きな目で見れば人から支持される魅力のある企業が儲かり、人から好かれる人が幸せになると思うのです。

ですから、そうなる努力を後回しにして結果を出そうとすることは、私には矛盾に思えます。

昔の言葉に、「段取り八分」という言葉がありますが、事の成否は準備の段階で、すでに八割は決まっているのかもしれない。

もし家を持ちたいと思っても、頭金を準備していない人は、せっかく良い物件が売りに出ても、そのチャンスをもものにすることは出来ないのです。

講演会などに遅れて行くと、前の方にしか席がなく、仕方なく前の方に座ったことはありませんか？ 人生も、準備が遅ければ遅いほど、選択肢は限られて行くのです。

自由を得るコツは、早く準備することです！

☆☆ お便りコーナー ☆☆

私は、中三の時、高洲中学校で杉井先生のお話しを聞き、それから「こおろぎ」を送って貰っている者です。「こおろぎ」には、毎回、ハツとさせられたり、「ああ、こういう考え方もあるんだ。見習いたいな」ということが多々あり、とても勉強になりました。私は、この四月から東京の専門学校へ行くことになり、これから自分で道を切り拓いていけるように努力するつもりです。長い間、本当にありがとうございました。これから多くの方々の力になって下さい。応援しています。M・Hさん

新年度を迎え、新しいスタートを切られた方が、たくさんおられることと思います。そんな中、私のところに、左のお便りが届きました。私達大人でも、新しい世界に踏み出す時には、これからのことに対する期待や準備で、なかなか過去を振り返るゆとりを失いがちですのに、四年も前に中学で講演を聴いた私にまでお便りをくれる人がいることに、本当に感動しました。こうしたことの出来る人は、きっと素敵な人生を送られると思います。本当に、嬉しいお便りでした。「ありがとう。」

「中日農業賞」受賞のパーティー、本当に良かったですね。嬉しそうに厚志さんの社員さん一人一人に、お酌を回している杉井さんの姿がとても印象的でした。今回、杉井さんが、厚志さんや会社にはなく、社員さん一人一人に花束を用意していたのが、とても勉強になりました。厚志さんが大切にしている社員さん達を祝福することが、厚志さんを祝福することだったのです。私は、何も考えずに形を整えていました。仕事でも、そうしているかもしれません。私も喜ばせ上手になりたいと思います。

下の二枚は、社員さんから戴いたものです。実物の葉書を見ないと分からないのですが、「辛い」という字が「幸い」になっていたり、宛て名の「様」という文字が、名前の横にくるほど字が大きかったりする葉書です。しかし、そうした不格好な葉書が、東京で一人暮らしをしている私にとって、どれほど心に染みるか想像してみてください。私の力になってくれると言っている彼は、まだ二十歳の青年です。嬉しいような、情けないような気持ちですが、私の大切な宝物です。

新しい生活はどうですか？ 慣れない土地で、慣れないことの連続で身体をこわさないように気をつけて下さい。もし辛いことがあったら、素直に辛いと言っていいですよ。寂しくなったらいつでも僕を頼りにして下さい。力になります。頑張ってください！ 神戸 基宏

お葉書ありがとうございます。そして入学おめでとうございます。いよいよ一人暮らしですね。杉井さんは寂しがり屋なので、きっと寂しくなることもあるでしょうけど、そんな時、いつものように強引に誘われても東京まではなかなか飲みに行つてあげられませんが、くれぐれも寂しくならないようにして下さい。会社の方は皆で頑張りますので、帰って来たときには皆で飲みましょう。楽しみにしています。小澤 幸弘